

四條畷市教育委員会ニュース

内容：

- ・四條畷市教育フォーラム2013
- ・使える英語プロジェクト授業研究会・講演

「子どもたちに確かな学力を」

○四條畷市教育フォーラム2013 開かれる

平成25年2月2日(土)四條畷市立市民総合体育館サン・アリーナ多目的室において、学校・家庭・地域が一体となり、四條畷市の子どもたちの確かな育ちを築くため、学校の果たす役割を考える四條畷市教育フォーラム2013を開催しました。

今回、初めての教育フォーラムを開催することができ、市長、市議会正副議長、市議会議員の皆様のご来賓を始め、教職員、保護者、地域の皆様、市職員、教育関係者など多くの方々の参加をいただき、盛会裏に終了することができました。

実践発表「チャレンジ！西中校区」

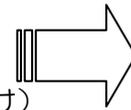
四條畷西中学校からは、

課題：学力、学習意欲、夢や目標、自尊感情・自信、人間関係・友達関係を解決するため、

取組み：「愛を育てる」＝助け愛(一人では生きていけない)

励まし愛(ほめられたらうれしい)

学び愛(みんなわからないことだらけ)



班づくりで愛を育てる！

愛あふれる学校に：生徒が「行きたい学校」に

保護者が「通わせたい学校」に

地域が「誇れる学校」に

教師が「働きがいのある学校」に

西中のチャレンジ

教師が変われば、学校が変わる

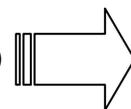
職員一人一人の持つベクトルが、確かな力を生み出す

- ★教師が変われば授業が変わる。
学力向上委員会・班づくり推進委員会
- ★授業が変われば生徒が変わる。
協同学習(班学習)による研究授業
- ★生徒が変われば学校も変わる。
生徒会の活性化・学校行事・地域行事への参画

くすのき小学校からは、

学力向上の取組み：朝の10分間学習(パワーアップタイム)

(計算 フラッシュカード 音読)



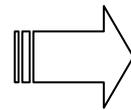
- ①脳を活性化
- ②集中力を高める
- ③基礎基本の定着

教職員校内研修：算数的活動を通して確かな学力を育む授業研究

少人数算数担当者と連携

漢字到達度調査の取組み

日々の実践の中で



子どもたちのやる気を育てる

岡部小学校からは、

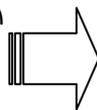
学習規律を育てる：話を聴く

チャイムを守る

忘れ物をしない

学び合い：自主的に学ぶ

自尊感情を高める



6年生「薬物乱用防止教室、英語コミュニケーション」活動

5年生「視覚障がい者のお話を聞いて、道徳・様々な感情」

4年生「体育館で国語の発表」

3年生「習字の練習、お店紹介」

2年生「花いっぱいになあれ、お店交流」

1年生「6年生とペア交流、お店交流」

支援学級「OKABEオリンピック」



生きる力を！

講演「学力を育てる」大阪大学大学院 志水宏吉教授から、

つながり格差

・昔の学力格差は都会と田舎の格差、都市格差だった。いまでは「つながり格差」が学力格差を生んでいるのではないかということが、我々の仮説です。

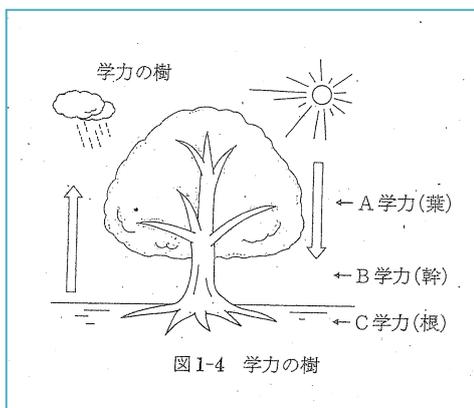
・いろいろな課題を抱えた子どもが、勉強をしたいなと思ったときに周りで声をかけてくれる大人がいない。逆に足を引っ張る他人がいる。何か聞こうにも聞けない状況がある。そういった状況が広がってくると学力の高い子どもと低い子どものつながりの格差がますます広がってきます。

・家庭の力、自分の力、その家庭のネットワークのつながりが豊かな子どもいますが、つながりの弱い子どもたちは、学力の下位層としてどんどん膨らんでいき、全体の平均点が落ちるということが、大阪で起きつつあったのかなと思います。



講演「学力を育てる」志水宏吉教授

・では、どうしたらいいのかというと、家庭、地域、学校、それぞれの中で子どもを取り巻くつながりをどれだけ新たに作ってあげられるか。家庭、地域、学校の三者の連携の中で子どもたちのつながりを更に広がりのあるものとする事ができる。それらを考えることが大切です。



学力の構造「学力の樹」

- ・ A学力(葉) = 知識・技能
- ・ B学力(幹) = 活用
- ・ C学力(根) = 意欲・関心・態度

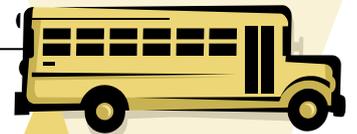
三つの学力をバランスよく育てることが大切！

意欲より、習慣が大切！

習慣が意欲を育む！

「力のある学校」のスクールバスモデル

Together



- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| ① 「エンジン」 = 気持ちのそろった教職員集団 | (<i>Teachers</i>) |
| ② 「ハンドル」 = 戦略的で柔軟な学校運営 | (<i>Organization</i>) |
| ③ 「前輪・左」 = 豊かなつながりを生み出す生徒指導 | (<i>Guidance</i>) |
| ④ 「前輪・右」 = すべての子どもの学びを支える学習指導 | (<i>Effective teaching</i>) |
| ⑤ 「後輪・左」 = とともに育つ地域・校種間連携 | (<i>Ties</i>) |
| ⑥ 「後輪・右」 = 双方向的な家庭とのかかわり | (<i>Home-school link</i>) |
| ⑦ 「インテリア」 = 安心して学べる学校環境 | (<i>Environment</i>) |
| ⑧ 「ボディ」 = 前向きで活動的な学校文化 | (<i>Rich school culture</i>) |

学校の力+家庭の力+地域の力=大阪の教育のよさ

パネルディスカッション「確かな学力の定着に向けて」

- ・ 他府県と比べて各学校のミドルリーダーが中心となって、自由に学校づくりを進めているのが大阪のよさ
- ・ 秋田と比べて①大阪の大学進学率は高い②コミュニケーション能力が優れていることが強みである
- ・ 四條畷市も大阪のよさをあわせもつ傾向である
- ・ 今後、学校、家庭、地域の教育力でもって、協働の取組みを大切にされたい

H24 学力向上に向けて
チャレンジ！西中校区
 四條畷西中学校
 <すのき小学校
 岡部小学校



参加者の感想から

- 学力向上とかかかっていますが、見える学力だけでなく、見えない学力にも焦点を当てていただきたい。志水先生がおっしゃっていたA学力、B学力、C学力の三つの学力がバランスよく育つことが、本当の学力向上だといえるのだと思います。私は四條畷の教員として、日々努力していきたいと思いますので、どうか、長い目で見ていただきたいと思います。(小学校教員)
- 他校の実践や日頃の取り組みなどを詳しく聞くことができ、とても参考になりました。「小中連携」という言葉が大変キーワードになるのではと感じました。小学校から中学校へ行った時の段差をなくすために、校種をこえて子どもたちのために何ができるか、どの実践が効果的かを交流し、実現することができたらと感じました。また、志水先生のお話が、わたしの感じる部分と同じ部分が大変多く、とても勉強になりました。学力は必ず三つの学力(根・幹・葉)が育たないと本当の力には結びつかないと日ごろから感じています。どうしても「葉」の部分ばかりに目がいってしまう状況には疑問を感じていたところに、志水先生のお話を聞くことができたので、明日からの力となりました。まず私のできることからその思いを忘れず取り組んでいきたいです。ありがとうございました。(小学校教員)
- 本日はよいお話をたくさん聞くことができ、参加してよかったと思っています。現在、所属している職場の子どもたちの成長のさらなる手助けができるようになりたいと、ますますやる気が出てきました。また今回のようなお話を聞く機会があればうれしいです。(小学校教員)
- 「学力を育てる」という非常にあいまいな課題について、実際の取り組みやその成果を聞いて、とても勉強になりました。目に見えない学力をつけさせるのが重要だと思っていましたが、そのためにも「葉」の部分の学習も大切なのだと感じました。今後の学習方法の参考にさせていただきます。(中学校教員)
- 元気の出るフォーラムでした。(中学校教員)
- 各学校の先生方は、子どもたちのことをいろいろと考えて教育してくれていると感じました。学校、保護者、地域で協力して知・徳・体のバランスの取れた子どもたちに育て、育てていければいいなと思いました。このフォーラムを聞きに来て良かったです。(保護者)
- 改めて、地域、家庭、学校、子どもたち、親、たくさんのつながりが大切であるということを確認しました。それと学力は毎日の習慣が大切であるということです。(保護者)
- 志水教授のお話(噛み砕いていただいていたので)本当にわかりやすかったです。秋田県と福井県の子どもたちの学力が高いというのは以前より聞いておりましたが、それがなぜなのか？ずっとわかりませんでした。今日のお話を聞いて納得しました。…(中略)… 「一人親・貧乏・持ち家・自家用車なし」というように悪条件の家庭でそだっていても、学校(そこでかわる先生、友だち)に行くことが楽しければ、子ども自身ががんばれるのかなと思います。葉っぱも幹もすごく大事だと思いますが、やっぱり根がしっかりしていないと、少しの風が吹くだけでバツリ倒れてしまうのではないのでしょうか？痛ましい事件が起こることも多くなり、先生方のご苦労も増える一方だと思いますが、ただただ先生方を信頼して子どもをおまかせしている家庭がたくさんありますので、がんばっていただきたいとおもいます。私もがんばります!!(保護者)
- とても参考になりました。なかなか市内の学校の先生や校長のお話や熱い想いを聞くことがなかったので、良かったです。四條畷にもよい学校があり、よい先生がたくさんいるんだと思いました。(市職員)
- 高い意識、情熱を持って取り組んでいることを感じた。他の教師の方にも期待したい。議会としても、より良い教育環境づくりに努めたい。(市議会議員)
- 実践発表の各校とも、一生懸命「学力向上」に向けた取り組みをされていることが伝わりました。年々ステップアップできるよう、がんばっていただきたい。講演の中で、家庭の子どもへの信頼の大切さ、学校との信頼関係の大切さに気づきました。「確かな学力の定着に向けて」のパネルディスカッションの各校の発表で先生方の熱心な取り組みは理解できました。次年度の取り組みについては、保護者との信頼度を高めるとともに、地域の人たちとの協働に向けて、お互いの信頼度を高めてほしい。(地域関係者)

○四條畷中学校区小中連携で「使える英語プロジェクト授業研究会・講演会」

1月28日(月)四條畷小学校5年生3クラスにおいて、外国語活動(英語授業)の授業研究会が実施されました。5年生の子どもたちは、週1時間の外国語の授業を楽しみにしていて意欲的に取り組み、英語のゲームやインタビューなどの表現活動に活発に参加してきました。

公開された授業では、今まで学習した単語や表現を使いながら、自分でランチメニューを考え作成する活動「シ

ストランごっこ、食事の注文」が公開されました。

店員「Hello! What would you like? 」 私「I'd like ()」の表現を発話しながら、英語の音声やリズムを体得していきます。集めた食材をまとめてオリジナルなランチメニューを作成し、みんなの前で発表していましたが、子どもたちは、自然と英語の表現に慣れ親しんでいて、英語に対する違和感を持つことなく授業が進められていきました。各担任はALT(中学校に配置されている英語指導助手)とJAT(小学校に配置されている英語教育支援員)とTT(ペアで協力しながらチームティーチング)でこれまで指導をしてきましたが、担任の英語指導への専門的なスキルアップに向けた努力も大きかったことと感じられます。

授業後の研究協議会において、他校参観者からの活発な意見交流もなされ、平成23年度から小学校5・6年生で本格実施されました外国語活動(英語授業)も形が整いつつあるようです。

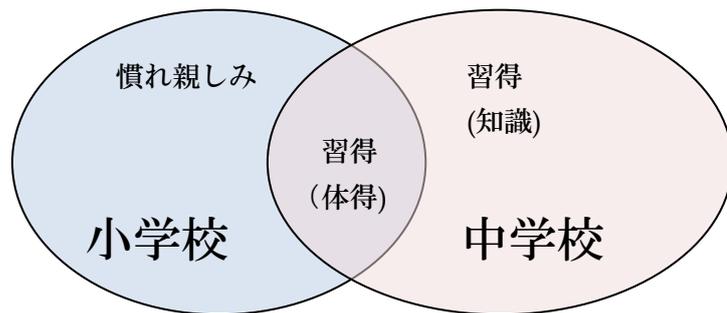


食べ物のピクチャカードを英語で発音 お店から食べ物カードを購入 オリジナルランチメニューを作成 ALTとチームティーチング

全体協議会では、菅 正隆先生(現大阪樟蔭女子大学教授、大阪府立高等学校英語教諭から大阪府教育委員会指導主事、前・文部科学省初等中等教育局教科調査官、前・国立教育政策研究所教育課程調査官を経て現職)から、「これからの英語教育」と題して講演が行われました。



講演「これからの英語教育」菅 正隆教授
ポイント



- ・小学校の外国語活動は、コミュニケーションのツールとして英語を使用することが目的で、中学校や高等学校のように言語を学ぶことが目的になっていない
- ・コミュニケーションとは、英語を使ってインタビュー活動やロールプレー活動で食事の注文、自己紹介をクラスの児童の前ですることなど、他の人と話をし、関わりを持つこと
- ・小学校の外国語活動は、慣れ親しむことを大切にしながら、英語の習得をめざすこと
- ・中学校は知識として英語の学力を習得することをめざす
- ・小学校では、英語の単語やセンテンスを耳で聞き理解することを大切にする
- ・そのため、単語やセンテンスを書いて記憶することは求めている
- ・小学校と中学校で連携しながら指導内容の共通理解を図り、保護者への説明・理解を得ることが急務
- ・ローマ字指導は小学校3年生で指導することになった(情報教育に対応するため)
- ・ローマ字は訓令式(ti)とヘボン式(chi)がある
- ・ローマ字が分かったからといって、英語力が向上するわけではない
- ・国内での自己紹介は 姓一名 であるが、外国での自己紹介は 名一姓 で、行われている
Nawate Tarou Tarou Nawate
- ・はじめて指導する先生方、まずは『習うより慣れろ!』